

令和2年度 第3回磐田市多文化共生社会推進協議会 摘録

日 時	令和3年2月26日（金）午後7時00分～9時00分
場 所	磐田市役所本庁舎4階 大会議室
出席委員	池上重弘会長、玉田文江委員、藤田允委員、川原利彦委員 平野利直委員、青島彰委員、小沼裕樹委員、鈴木啓和委員 松尾真里委員、田中琢問委員、相川アンジェラ委員 渡邊カルロス委員、
事務局	地域づくり応援課長補佐、職員3人
オブザーバー	多文化交流センター（杉田）

[会議内容]

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - (1) インターナショナルフェアの開催結果
 - (2) 磐田市はじめての日本語教室について
 - (3) 外国人市民向けアンケートの分析結果
 - (4) 前回ワークショップの振り返り
 - (5) 総務省の地域における多文化共生推進プラン改訂について
- 4 協議事項（意見交換形式）
 - (1) 第4次磐田市多文化共生推進プランについて
 - (2) コロナ禍の令和2年度を振り返って
- 5 閉会

[資料内容]

- 【資料1】 磐田・袋井・掛川インターナショナルフェア 2021 概要
- 【資料2】 2020年度 磐田市はじめての日本語教室 概要
- 【資料3】 2020年度外国人市民向けアンケート結果
- 【資料4】 令和2年度 第2回磐田市多文化共生社会推進協議会 摘録
- 【資料5】 「地域における多文化共生推進プラン」改訂のポイント
- 【資料6】 第4次磐田市多文化共生推進プラン 骨子案

[会議概要摘録]

- 1 第4次磐田市多文化共生推進プラン策定に向けた課題の整理

外国人市民向けアンケート結果及び多文化共生推進プラン改訂のポイント、令和2年度協議会での意見交換から、プラン策定に向けた課題整理を実施

 - (1) 外国人市民の高齢化
 - ・昨今、外国人高齢者の孤独死が多く見られる。
 - 磐田市でも、東新町団地や企業に勤める社員の家族が孤独死している現場に

直面することがある。

- ・現在起こりはじめており、これから増えてくる問題として、新たなプランから大きな課題として取り扱っていく必要がある。

(2) 外国人学校へのキャリア教育

- ・外国人学校へ通い、日本文化に触れずに育つ子供は、親と同じ様に派遣会社に勤める等の選択肢しかない。もっと様々な可能性に繋げられるよう、キャリア教育を導入する必要がある。

(3) 日本語教育の推進

- ・多文化共生における課題解決には、外国人の日本語能力向上が必要となる。今後、課題解決に向けた目的を持って日本語教室を開催していく必要がある。
- ・企業との連携を図る等、関係機関との協力体制の構築が必要。

(4) 情報発信の強化

- ・人口が急増している東南アジア圏の外国人市民に対して、対応する言語の情報発信ツールが無い場合、早急な情報発信手段の確立が求められる。
- ・外国人市民向けアンケート結果から、フェイスブックでの情報発信を希望する方が多くいる。

2 来年度プラン策定に向けて

プラン策定に向けて、これから実施すべきこと。

(1) 第4次プラン骨子から、キーワードを並べる。

- ・第4次プラン骨子の基本的施策から、ロジックツリーを作成し、想定されるキーワードへ要素分解していく。
- ・実施できそうな、過去の施策と類似した内容ではなく、現在抱えている問題を具体化して、問題に対する具体的施策を検討する。

(2) 外国人市民に向けたヒアリング

- ・協議会委員、市役所内だけでは、外国人市民の意思が反映されないため、プラン案が具体化したら、外国人市民を対象にしたヒアリングを実施すべきである。

(3) 目標の見える化

- ・職場環境改善や、相互理解の促進、協働の促進などは、今までもプランの中で対策を講じてきたが、より効果的な施策を実施するために、課題・目標の数値化等による見える化をしていく必要がある。

3 委員の任期満了

現協議会委員は、今年度で任期満了を迎える。

次年度、新たに協議会委員を選任する必要がある。